

THE WEEKLY NEWS OF FUTTSU-CHUO

世界に希望を生み出そう



寛容の心で、
ロータリーを楽しもう

RI会長 ゴードンR・マッキンリー 2023～2024

富津中央RC会長 若鍋武良

国際ロータリー 第2790地区 富津中央ロータリークラブ 創立:1966/10/13 加盟承認:1966/12/12
RI D2790 FUTTSU-CHUO ROTARY CLUB Organized : Oct./13/1966 Chartered : Dec./12/1966

No.2732 第11回例会 2023. 9. 21 晴

点 鐘：若鍋武良 会長

進 行：飯島由美副SAA 久保顯彦副SAA

ソング：我らの生業

お客様：第5グループAG 野村進一 様

榎本知津 様（10月新入会）

会長挨拶

若鍋武良 会長



皆さん今日は、お客様をご紹介致します。第5グループガバナー補佐の野村進一様です。後ほどご挨拶をいただきます。10月から入会される榎本知津様です。宜しくお願い致します。

先週の土曜日に「三枝病院開院55周年感謝の集い」がアカデミアパークホテルで盛大に開催されました。地域医療の拠点病院として益々のご発展を祈念致します。

会長職につく前、3月に開かれた「会長エレクト研修セミナー(PET)」で、会長は挨拶の中で出来る限りロータリーに関するテーマを選び、会員に伝

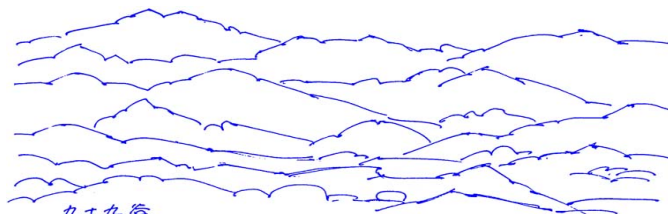
えるべきだ、と言われたことを思い出します。毎月初めの例会で「四つのテスト」が歌われます。今では英語バージョンでの歌唱です。今週は、「四つのテスト」の成り立ち、来週は、その解釈について考えてみます。「四つのテスト」は、2つの標語「超我の奉仕」、「最もよく奉仕する者、最もよく報われる」と共にロータリアンの指針として尊重されています。

ロータリー用語 「四つのテスト」

(1)「四つのテスト」の発案者

「四つのテスト」の発案者は、シカゴのロータリアンのハーバート・J・テーラーです。テーラーはアメリカの実業家で、彼は1893年にミシガン州ピックフォードで、敬虔なクリスチャンの両親の家庭に生まれました。大学卒業後、シカゴを中心として実業界で活躍し、1929年には有名な食品会社シカゴ・ジュエル・ティー社で取締役副社長となった。次期社長候補であったが、1932年に破産寸前状態にあった調理器具メーカーの会社クラブ・アルミニウム製品会社の再建を依頼された。1930年代の世界恐慌のさなか、同社は多額の負債をかかえ、倒産の瀬戸際であったが、彼はこの事業を引き受け、4項目からなる簡明な倫理指針を考案し、危機に瀕した同社を救った。この時の指針は、後に国際ロータリーによって採用され(1943年)、「四つのテスト」として広く知れ渡ることになった。彼は、1954年～1955年に国際ロータリー会長に就任し、RI発展に貢献しました。

〒293-0043 富津市岩瀬 841-3
いち川旅館
Ichikawa ryokan
841-3 Iwase Futtsu-shi Chiba-ken,
293-0043
Tel. 0439-65-0177 Fax. 0439-65-0178
URL <http://www.futtsuchuo-rotary.org>



(2)時代背景

シカゴと世界恐慌 ハーバート・テラーが活動の本拠地としたイリノイ州シカゴは、19世紀初めまではミシガン湖畔の牧畜等の小さな交易所であった。が、1850年代にミシガン運河・鉄道の開通で発達し、南北戦争を契機に飛躍、20世紀初頭には一大商工業都市に発展していた。しかし、他のフロンティア(開拓地)の街同様、1929年のウォール街の株暴落に始まった大不況(世界大恐慌)で、多くの会社が倒産し、失業者が溢れ、一部無法状態と化し、労働者のモラルが欠如したと言われます。ハーバート・テラーが勤労者の倫理指針として「四つのテスト」を誕生させたのは、このような歴史的背景があったのです。

今回は「四つのテスト」の解釈について考えてみます。

幹事報告

岡元 誠 幹事

1. コーディネーターニュース10月号を回覧
2. 2026-27年度ガバナーの公表ついてを回覧
3. R財団統括委員会よりMCRレポートを回覧
4. 日経新聞全面広告掲載協力をお願いを回覧
5. 第5グループ情報研修会の出欠を回覧
6. 10月米山月間資料を回覧

ガバナー補佐挨拶

第5グループ AG 野村進一 様



野村ガバナー補佐は2度目の当クラブ訪問でした。第5グループ活動の現状と今後の指針を頂きました。話された内容については、編集の

都合で次号に掲載させていただきます。

卓話

ユニークな『町おこし』から学ぶ

～地域を愛し、未来を考えた発想と行動力～

星野 誠 会員



全国には様々な町おこしが存在しますが、今回はとてもユニークかつ勇気ある行動によって故郷を活性化させた話を紹介したいと思います。

『ローマ法王に米を食べさせた男』



舞台は2005年、石川県羽咋市(はくい)神子原(みこはら)地区。人口はかつて1,000人を超えていたが半減、加えて65歳以上が半数を占める限界集落を年間予算60万円、わずか1年で建て直させたスーパー公務員、高野誠鮮さんの取組みである。この奮闘ぶりは忽ち世間に知れ渡り、本が出版された後にドラマ化されたことでも有名です。



1. 空き農地、空き農家情報バンク登録

これは空いている家や遊休農地を都市住民に貸し与える制度です。100人以上の村民を集め説明するも、過去にルールを守らず秩序を乱した都市住民がいたため、ものすごい反発を受け、いきなり暗礁に乗り上げてしまいます。しかし「村人が都市住民を選ぶ」という逆の発想で解決します。神子原のルールを守る人に来てもらう。希望者と何度か面談し、村の一員として本当にやる気があるのか？ しっかりとした動機をもっているか？ など徹底調査を行った。要するに「お客さん」として来てもらうことを避けるためです。集落が欲しいのは村民と苦楽を共にする仲間であり、一緒になって汗を流して作業をしてくれる「本当の村人」を求めた。準備金が目当てで村に入って来た人は「来てやったんだ」などと大きな勘違いをする人が多いからだそうです。これは過疎高齢化の村に人を呼ぶ、全国の失敗例を参考にしたものです。

2. CIA戦略

これまでJAと市役所の補助金に頼っている農家の所得を上げるため、農家自らが価格を付けられる直売所を農家自身の出資によって設立できないかと考えた。しかし、ここでも「そんなことできるか」「失敗したらどうするんだ」などの反発を受けます。そこで次の策に出ます。CIA(米国中央情報局)を中心とした人間行動心理に関するレポートをヒントにします。「大衆を動かすには目と耳から入った情報によ

って心が動く」つまり、一つの村、集落を動かす時には常に「神子原」を中心に置けばいいと考えた。そこからユニークな戦略が次々に実施されて行きます。地元の大学教授を招き、「神子原は素晴らしい」と力説してもらい。内側の人間だけでなく、外側からの援護をもらう。また、地元だけでなく、米AP通信や英ロイター通信、棚田オーナー制度のアピールなど神子原を中心とした内容の外部発信を積極的に行った。その行動が結果として現れ、40組の募集に対し100組の応募が殺到するなど嬉しい悲鳴となったのです。

3. 神子原米のブランド化

羽咋市で最も人口の減少が顕著で疲弊していた神子原地区においては、市長から命題が与えられていた。一つは前述の「過疎高齢化集落の活性化実現」もうひとつは「農産物のブランド化促進」であった。当時、神子原地区のコシヒカリは全国の美味しいお米ランキング第3位に選ばれるほどであったが、全くの知名度がなかった。そこで思い浮かんだPR方法が「あこがれ計画」であった。人は有名人が持っていたり、使っているものを欲しがるとの傾向がある。有名人が「神子原のお米は美味しい」と言ってくれば素晴らしい宣伝になると考えた。では一体誰に食べてもらうのがいいのか？ 神子原を英語で直訳すると「サン・オブ・ゴット」＝「神の子」＝「イエス・キリスト」、キリストで最も権威のあるのは「ローマ法王」と連想する。すぐさま当時のローマ法王へ「うちの村のお米を献上したいのですが・・・」と手紙を送った。普通考えがついても行動に移せる人はどれだけいるでしょうか。そして手紙を送ってから5か月後の2005年10月、ついに返事が届きます。「大使が話を聴きたいので東京のローマ法王大使館まで来てほしい」と。市長含め3名で45キロの神子原米を担ぎ訪問。その甲斐あって神子原の米をローマ法王に召し上がって頂くことが決定したのです。このニュースは瞬間に国内外のメディアに大きく取り上げられ、神子原米は「奇跡の米」として今でも入手困難なブランド米として成長を遂げます。最終的に自らが価格を付けられる直売所を設置することができ、また、農業を志す若い移住者も増加し、見事

に「限界集落」からの脱却に成功した。こうして多くの成果を上げてきた高野さんですが、成功の裏にはそれ以上の多くの失敗があったと言います。特に印象的な言葉は「やりたいことが難しそうであったりすると、やる前から無理だと諦めてしまう。それは勝手な決めつけである。勝手に自主規制して何もアクションを起こさないのは可能性の無視。最大の悪策である」と言っています。町おこしだけに言えることではなく、何事にも通じるものです。自分の人生においても大いに参考にしていきたいと思えます。

会員報告

『ポール・ハリスとアル・カポネについて』

久保顯彦 会員



先週若鍋会長から託されました三島西ロータリークラブ創立50周年記念、親睦一座「ポール・ハリスとアル・カポネ」のDVDを、次週(9/28)例会のランチタイムに上映いたします。20分強のロータリアンによる演劇で、随所にロータリーの豆知識がちりばめられとても面白い作品でした。次週例会のプログラム、三枝会員による『ロータリーゼミナール』に合致する内容ですので、是非ご鑑賞ください。



ニコニコBOX

神子勝美 親睦担当部長

若鍋会長 野村ガバナー補佐をお迎えして

岡元幹事 //

渡辺哲夫 榎本知津さんをお迎えして

神子勝美 //

*星野 誠 卓話をさせて頂いて

*榎本守男 野村ガバナー補佐をお迎えして

星野会員卓話・榎本知津会員入会

三枝病院55周年祝賀

平野安照 榎本新会員をお迎えして

山下 厚 //

相川恵美子 野村ガバナー補佐をお迎えして

白石幸久 榎本新会員・野村ガバナー補佐
歓迎

小野恒靖 三枝病院開院55周年そして米寿
卒寿誠におめでとうございます

飯島由美 野村ガバナー補佐お迎えして
星野会員素晴らしい卓話有難う

高橋裕之 野村ガバナー補佐ようこそ
榎本知津会員10月からよろしく

* > 1,000円 計14,000円

出席報告

栗原典子 出席担当部長



区分	会員数	出席	欠席	MUp	出席率
今回	31/25	24	5	1	83.33%
前回	31/22	20	7	2	75.86%
前々回	30/23	22	7	1	76.67%

出席率の計算式

$$\frac{\text{当日出席した会員数} + \text{Makeupした会員数}}{\text{全正会員数} - \text{当日欠席した免除適用会員数}}$$